

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

平成23年3月末	平成23年6月末	平成23年9月末見通し	平成23年12月末見通し
+80千トン [2270"] (103.7%)	+62千トン [2332"] (102.7%)	-100千トン [2232"] (95.7%)	-42千トン [2190"] (98.1%)
2150千トン(94.7)	2370千トン(101.6)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成23年3月末	平成23年6月末	平成23年9月末見通し	平成23年12月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は83,800円で前年比+10,700円、前期比では+6,800円。東日本大震災による夥しい被害は、社会的混乱を引き起し収束への方向がみえない状態だった。震災発生後の1~2週間は店売り玉が動き、早急に必要な資材の手当てが行われた。その動きが一段落すると、通常のペースに戻ったが、震災の影響で物件の延期、中止も出ており需要不足の状況を助長した。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は81,900円で前年比-500円、前期比では-1,900円。5月連休明けから荷動きが落ち込み、6月もその基調を引きずった。販売量低落、市況は軟弱地合となり、見通し的にも暗いものがあり、市場環境は最悪であった。震災の爪痕は深く、製造業関連の生産水準は旧に復さず、回復への歩みは遅々としていた。また、夏場に想定される電力不足が不安材料だった。	なんとか電力不足の夏を乗り切り、需要動向に若干、回復の兆しが見えてきた。復興需要が本格化するのには、まだ時間を要すると思われる。自動車、トラック、建産機は堅調ではあるが、V字回復というほどの力強さはない。市場環境は最悪期を脱した。今後、メーカーの価格政策にもよるが市況は強含みに転じるものと見られる。また、在庫も減少傾向となるだろうが、販売量からすると過剰感がある。	荷動き好転、市況上昇の期待感はあるが、不安定な要素が多すぎる。冬場の電力問題、原料価格の動向、円高による国内産業空洞化、といずれも予断を許さず、良くなる兆しを払拭しかねない課題が控えている。また、復興需要はその先触れのようなものが始まっているが本格化するのには来年以降との見方が支配的である。ただ、若干でも需要が増加しそれが流通末端まで降りてくれば前期よりは改善された状況で推移すると思われる。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

未だ赤字回避のため在庫減らしに注力する状況が続いている。市場環境は少しずつではあるが、月を追って改善し、最悪期は脱したとの販売業者の声も聞かれるようになった。だが、現状の販売数量からするとまだ在庫過剰感が残っており、当分は必要な物だけを手配する姿勢であろう。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 震災の影響から停滞していた自動車関連の生産が回復基調にあるものの、国内販売の不振や円高から今後、生産調整の可能性も出てくる。建築関連需要は、耐震、店舗、など小口案件はやや増えたものの、震災復興の遅れから、依然需要の盛り上がりには欠けている。円高による輸入材の増加や海外移転もさらに加速されそうな状況で、これらの歯止めとなる施策や、内需喚起のための早急な対策を望む。

(愛知) 建築については、9月以降の見積もりが出始めているが、成約までには至っていない。自動車は回復傾向がはっきりしてきた。建産機は輸出を中心に好調であるが、円高の影響が先々懸念されそう。このように動きは少しずつ良くなっているが、本当に需要が出てくるのはまだ、先のことのように思える。そのため流通の中にはまだ売り急ぎする向きもある。地区の鉄骨・鉄筋業者に廃業するところもあり、建設関連業界の厳しさを改めて実感している。